

[トピックス]

麦類の一斉播種を行いました

爽やかな秋空の下、麦類の一斉播種を、10月29日・30日に実施しました。

今年6月に収穫・選抜した品種候補や、新たに交配した組合せの種子などを、約1.2ヘクタールの畑にセンター職員総出で播種しました。

新品種の開発には、出穂期や成熟期、稈長、穂数などの形質の評価が不可欠です。特に、育成段階に応じた適切な播種方法を確実に行うことが重要であるため、令和の現在も、一粒一粒人の手で丁寧に播いています。

この後、ほ場で選抜された品種候補は、醸造適性や食味などの評価を経て、より優れた品種候補へと絞り込まれていきます。

延べ125名の手によって播種された種子から、将来の有望品種が誕生することが期待されます。



写真1、2 一斉播種の様子

(麦類研究室)

[トピックス]

2.5 葉期を過ぎたら「麦踏み」をしましょう

「麦踏み」は、麦作に特有の重要な作業であり、他の作物には見られない特徴的な管理技術です。茎立ち前の若い時期（11～3月頃）に茎葉を踏むことで、茎数の増加、凍上害の回避、耐寒性の向上、早期の茎立ち抑制等、生育に良い影響を与え、収量や品質の向上につなげることができます。

特に、2.5葉期を過ぎたほ場では、年内に1～2回「麦踏み」を実施することで、耐寒性を高めることができます。さらに、年明けから茎立期直前までに2回程度「麦踏み」を行うことで、穂揃いがよく、倒伏しにくい麦に育てることができます。

近年は、温暖化の影響により、麦の生育が前進しており、遅霜による幼穂凍死等を回避するためにも、ほ場ごとに葉齢を確認し、適期に「麦踏み」を行うことが重要です。



写真1 麦踏みの様子

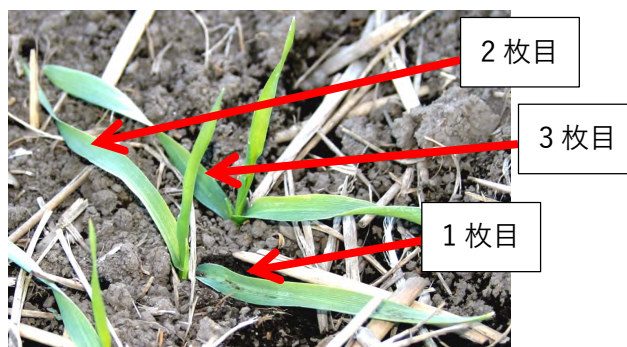


写真2 2.5 葉期の大麦

(麦類研究室)